

平成 30 年度日本医学会の活動

門田 守人*

Monden Morito

* 日本医学会会長

1. 日本医学会総会

1) 「第 30 回日本医学会総会 2019 中部」の準備

「医学と医療の深化と広がり ～健康長寿社会の実現をめざして～」をメインテーマとした「第 30 回日本医学会総会 2019 中部」の準備としては、準備委員会のもと、各委員会を招集し、討議を重ね、2018 年 12 月現在、下記の概要を決定した。

1) 学術集会関係

- ・会場は、名古屋国際会議場、名古屋学院大学白鳥学舎、ウインクあいちの 3 施設を利用する。
- ・4 つの柱「医学と医療の新展開」「社会とともに生きる医療」「医療人の教育と生き方」「グローバル化する日本の医療」に沿って 26 のテーマを選定し、それぞれのテーマに合わせた 90 セッションを策定した。
- ・開会講演／閉会講演、記念講演／特別講演の演者を以下のとおり決定した。

< 1 日目 >

- ①開会講演「健康長寿社会を支えるトランスフォーマティブエレクトロニクス」
天野 浩 先生（名古屋大学教授）
- ②会頭講演「医学・医療と生老病死：不変の精神と技術革新」
齋藤 英彦 先生（第 30 回日本医学会総会 2019 中部会頭）
- ③日本医師会長講演「日本医師会の医療政策 ～健康な社会を作ろう～」
横倉 義武 先生（日本医師会長）
- ④日本医学会長講演「社会と共に進化する医学」
門田 守人 先生（日本医学会長）

< 2 日目 >

- ⑤記念講演「やれる理由こそが着想を生む ～はやぶさ式思考法～」
川口 淳一郎 先生（宇宙航空研究開発機構（JAXA）教授）
- ⑥記念講演「野生の思考と未来の人材育成 ～ゴリラに学ぶ～」
山極 壽一 先生（京都大学総長）
- ⑦特別講演「AMED のミッション：グローバルデータシェアリング」
末松 誠 先生（日本医療研究開発機構理事長）
- ⑧特別講演「地域包括ケア時代における医療専門職育成 ～専門職としての自律と多職種連携～」
福井 トシ子 先生（日本看護協会会長）
- ⑨特別講演「健康長寿の延伸に向けて ～口腔の健康と全身の健康～」

堀 憲郎 先生（日本歯科医師会長）

⑩特別講演「ウエルネス 8020 ～フレイル・ロコモ・認知症対策～」

内堀 典保 先生（愛知県歯科医師会長）

⑪特別講演「地域包括ケアにおける薬局薬剤師の役割 – チームで守る安全・安心な薬物治療 –」

山本 信夫 先生（日本薬剤師会長）

⑫特別講演「病院薬剤師の業務の変遷 – 調剤室から病棟へ、そして地域医療連携へ –」

木平 健治 先生（日本病院薬剤師会長）

< 3日目 >

⑬記念講演「過去と現在を直視し、今後の震災に備える」

福和 伸夫 先生（名古屋大学減災連携研究センター長／教授）

⑭記念講演「がんを免疫力で治す」

本庶 佑 先生（京都大学高等研究院副院長／特別教授）

⑮閉会講演「東海道新幹線から超電導リニアへ」

葛西 敬之 先生（東海旅客鉄道株式会社取締役名誉会長）

⑯閉会講演「iPS 細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」

山中 伸弥 先生（京都大学 iPS 細胞研究所所長／教授）

・日本医師会と連携して、認定産業医、健康スポーツ医、かかりつけ医などの研修単位取得を可能とした。また、専門医共通講習会の開催を決定した。

・各分科会にパネル展示制作を依頼した。

・健康社会宣言 2019 中部の素案を作成した。

・日本医学会総会奨励賞の受賞者 12 名を決定した。受賞者には本総会期間中に受賞講演をしていただき、審査の上 4 領域（生理系・病理系、社会医学系、内科系、外科系）それぞれ 1 名の最優秀奨励賞を決定する。本総会最終日の受賞式にて結果を発表、表彰する。

2) 展示関係

・学術集会参加者向けの学術展示を名古屋国際会議場とポートメッセなごやで開催する。学術集会と連携しかつそれを補完する展示を基本方針として、最新の医学と医療に関する機械、器具、サービス、情報などを集め、展示する準備を進めている。

・一般市民向けの展示「健康未来 EXPO2019」をポートメッセなごやで開催する。学術講演の 4 つの柱に合わせた 4 つのテーマ「きぼうのまち」「あたたかいまち」「まなびのまち」「ひろがるまち」に沿った展示と、「運動・スポーツひろば」「安全なくらしのひろば」での体験プログラムの準備を進めている。また、11 月には「健康未来 EXPO2019」のホームページを開設した。

・医学史展を名古屋大学博物館で開催する。展示パネルの配置や展示物に関する検討、解説付き年表の編集作業を行った。

・幼児～中学生を対象とした「心に残る医療絵画コンクール」を企画した。631 点の絵画が応募され、審査を進めている。

・イベント企画として以下を開催した。

① 6月10日（日）三重大学医学部・三重県医師会「市民公開健康講座」

② 6月30日（土）福井大学医学部・福井県医師会・日本肝臓学会「ハピお医者さんチャレンジ」

③ 7月15日（日）信州大学医学部・長野県医師会・長野県・長野県立病院機構「長野県市民公開講座」

④ 9月1日（土）～2日（日）中日新聞社・名古屋大学医学部「第6回中日健康フェア 2018」

⑤ 10月13日（土）富山大学医学部・富山県医師会「第30回日本医学会総会 2019 中部プレイベント」

ト in 富山 市民公開講座」

⑥ 10月14日（日）岐阜大学医学部・岐阜県医師会「岐阜大学医学市民講座」

⑦ 10月28日（日）北信がんプロ・金沢大学医学展実行委員会「平成30年度第1回北信がんプロ市民公開講座 in 金沢」

⑧ 12月8日（土）浜松医科大学・静岡県医師会「第40回浜松医科大学公開講座」

⑨ 1月22日（火）愛知県医師会・名古屋大学医学部・名古屋市立大学医学部・藤田医科大学医学部・愛知医科大学医学部「第30回日本医学会総会2019中部プレイベント in なごや 市民公開講座」（予定）

3) その他

・学術集会参加者の交流を目的として、ソーシャルイベント（卓球、将棋、ゴルフ、囲碁、ラグビー、テニス、柔道、アマチュア無線）の開催を計画した。

4) 事務局

「第30回日本医学会総会2019中部」事務局

〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65 名古屋大学医系研究棟3号館3階

Tel：052-744-2515（直通）

E-mail：isoukai-jim@med.nagoya-u.ac.jp

事務局長 青山 正晴

2. 日本医学会幹事会

第2回日本医学会幹事会を、平成31年2月22日（金）に開催。主な議題は、「2018年度日本医学会年次報告」、「2019年度日本医学会事業計画」、「日本医学会新規加盟学会」等である。

3. 日本医学会定例評議員会

第86回日本医学会定例評議員会を、平成31年2月22日（金）に開催。主な議題は、「2018年度日本医学会年次報告」、「2019年度日本医学会事業計画」、「日本医学会新規加盟学会」等である。

4. 日本医学会シンポジウム

1) 日本医学会シンポジウム

●第153回日本医学会シンポジウム

第153回日本医学会シンポジウムは、「身近になったゲノム医療～研究から診療への課題～」をテーマに、平成30年6月2日（土）、日本医師会館大講堂にて開催した。組織委員：福島義光（信州大学名誉教授、特任教授）、小西郁生（国立病院機構京都医療センター院長）、参加者数：240名。

●日本医学会公開シンポジウム

日本医学会公開シンポジウムは、「適切な遺伝学用語のあり方」をテーマに、平成30年12月11日（火）、日本医師会館大講堂にて開催した。組織委員：辻 省次（国際医療福祉大学大学院・医学部教授、ゲノム医学研究所長）、参加者数：131名。

●第154回日本医学会シンポジウム

第154回日本医学会シンポジウムは、「AIと医療の現状と課題」をテーマに、平成31年1月16日(土)、日本医師会館大講堂にて開催した。組織委員：大江和彦(東京大学大学院医学系研究科教授・医療情報学)、竹内 勤(慶應義塾大学常任理事/医学部教授・リウマチ・膠原病内科学)、参加者数：427名。

2) 日本医学会シンポジウム企画委員会

標記委員会(委員：間野博行、北川昌伸、大西 真、吉野一郎、橋本英樹)は、シンポジウムの基本方針、テーマおよび組織委員について企画構成を行っている。今年度は次のとおり開催した。

第1回委員会(平成30年5月11日)において、第154回シンポジウムのテーマ決定と第155回シンポジウムのテーマ案の検討がなされた。

第2回委員会(平成30年10月10日)において、第155回シンポジウムのテーマ決定について検討がなされた。

3) 日本医学会シンポジウム記録(DVD)

「第153回日本医学会シンポジウム」、「日本医学会公開シンポジウム」、「第154回日本医学会シンポジウム」の全容を、DVDに制作し、関係各位に謹呈した。

また、DVDの内容は、日本医学会ホームページの「Onlineライブラリー」の項で映像配信した(URL:<http://jams.med.or.jp/>)。

■④日本医学会シンポジウムの要旨

要旨は、日本医師会雑誌に次のとおり掲載した。第153回日本医学会シンポジウム「身近になったゲノム医療～研究から診療への課題～」:第147巻第8号(平成30年11月号)、公開シンポジウム「適切な遺伝学用語のあり方」第154回シンポジウム「AIと医療の現状と課題」:第147巻第12号(平成31年3月号)

5. 日本医学会公開フォーラム

1) 日本医学会公開フォーラム

●第24回日本医学会公開フォーラム

第24回日本医学会公開フォーラムは、「認知症の予防とケア」をテーマに、平成30年7月21日(土)、日本医師会館大講堂にて開催した。組織委員長：秋山治彦(横浜市立脳卒中・神経脊椎センター臨床研究部部長)、参加者数：328名。

●日本医師会・日本医学会合同公開フォーラム

日本医師会・日本医学会合同公開フォーラムは、「HPVワクチンについて考える」をテーマに、平成30年10月13日(土)、日本医師会館大講堂にて開催した。組織委員：藤井知行(東京大学大学院医学系研究科産婦人科学教授)、高橋孝雄(慶應義塾大学医学部小児科教授)、参加者数：291名。

2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会

日本医学会公開フォーラム企画委員会(委員：跡見 裕、池田康夫、南 砂、羽鳥 裕)は、日

本医学会公開フォーラムの基本方針、テーマおよび組織委員について、企画構成を行う。今年度は、次のとおり2回開催した。

第2回委員会（平成30年5月11日）において、日本医師会・日本医学会合同公開フォーラムのテーマと組織委員を決定した。

第3回委員会（平成30年10月10日）において、第25回日本医学会公開フォーラムのテーマと組織委員を決定した。

3) 日本医学会公開フォーラム記録 (DVD)

「第24回日本医学会公開フォーラム：認知症の予防とケア」、「日本医師会・日本医学会合同公開フォーラム：HPVワクチンについて考える」のフォーラムの全容を、DVDに制作し、関係各位に謹呈した。

また、DVDの内容は、日本医学会ホームページの「Onlineライブラリー」の項で映像配信した（URL:<http://jams.med.or.jp/>）。

6. 日本医学会医学用語管理委員会

日本医学会医学用語管理委員会は、委員長：脊山洋右（医学中央雑誌刊行会理事長）、副委員長：大江和彦（東京大学大学院教授）、委員：小野木雄三（国際医療福祉大学三田病院教授）、河原和夫（東京医科歯科大学大学院教授）、坂井建雄（順天堂大学大学院教授）、清水英佑（中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター所長）、田中牧郎（明治大学国際日本学部教授）、辻省次（東京大学大学院特任教授）、森内浩幸（長崎大学大学院教授）、山口俊晴（癌研有明病院病院長）の10名により構成されている。

本年度は以下のように3回開催した。第20回医学用語管理委員会（平成30年8月8日）、第21回医学用語管理委員会（平成30年10月2日開催）、第22回医学用語管理委員会（平成30年12月18日開催）、第23回医学用語管理委員会（平成31年3月19日開催）。

7. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ

平成29年9月6日に日本遺伝学会が発表した優性遺伝、劣性遺伝などを含む遺伝学用語の改訂の提案については、マスコミで広く取り上げられた。遺伝学に関する用語は、医学の広い分野に関係し、医学教育においても重要な位置を占める。また、患者や家族も含め、社会的な影響も強いことから、日本医学会では医学用語管理委員会の下にワーキンググループを設け、検討を行うことになった。委員は辻省次（座長、日本神経学会）、柏井聡（日本眼科学会）、久具宏司（日本産科婦人科学会）、櫻井晃洋（日本人類遺伝学会）、戸田達史（日本神経学会）、小崎健次郎（日本先天異常学会）、榊屋啓志（日本遺伝学会）、森内浩幸（日本小児科学会）、各委員。

第4回を平成30年4月6日（金）に、第5回を平成30年8月23日（金）に、第6回を平成31年3月19日（火）に開催した。

ワーキンググループが中心となり、12月11日（火）13:00～17:00、日本医師会大講堂にて「適切な遺伝学用語のあり方」をテーマに日本医学会公開シンポジウムを開催した。幅広い分野の方を演

者に招き、ディスカッションを行った。ワーキンググループではこのディスカッションをもとにさらなる議論を深めたい、としている。

8. 日本医学会分科会用語委員会

平成30年度日本医学会分科会用語委員会を平成30年12月18日（火）に開催した。主な議題は、1. ICD-11の我が国への適用に向けて、2. 日本医学会医学用語辞典WEB版のメンテナンス報告、3. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループからの報告、4. 「奇形」を含む医学用語の置き換え提案：日本小児科学会からの経過報告、5. AI関連技術の活用で知る医学用語の現状課題、6. 学術分野における著作権を取り巻くトレンド、質疑応答である。

9. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会

医学賞・医学研究奨励賞の選考作業は、日本医学会が日本医師会より委任されているもので、本年度は平成30年8月31日（金）に開催された。

委員に加え、本年度は、特例委員として、仲嶋一範（慶應義塾大学医学部解剖学教授）、森井英一（大阪大学大学院医学系研究科病態病理学教授）、武林 亨（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教授）、辻 省次（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科神経内科学教授）、南学正臣（東京大学大学院医学系研究科腎臓・内分泌内科学教授）、高木康志（徳島大学大学院医歯薬学研究部脳神経外科学教授）、秋山英雄（群馬大学医学部眼科学教授）の7氏が加わった。

結果は、次のとおり医学賞3名、医学研究奨励賞15名が選考され、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において表彰された。なお、医学賞受賞者の論文を日本医師会雑誌（第147巻第9号）に掲載した。

●平成30年度日本医師会医学賞

- ・脳機能を支えるシナプスの機能発達、可塑性および伝達修飾の研究
狩野方伸／東大・神経生理学
- ・大規模コホート研究の推進と日本人のエビデンスに基づいたがん予防法の提言
津金昌一郎／国立がん研究センター社会と健康研究センター
- ・緩徐進行1型糖尿病（SPIDDM）の成因、診断、および発症・進展阻止治療に関する研究
小林哲郎／冲中記念成人病研究所

●平成30年度日本医師会医学研究奨励賞

- ・慢性炎症における肺線維化機構の解明と病態制御基盤の構築
平原 潔／千葉大・免疫発生学
- ・臓器間連携を介した新規心臓恒常性維持機構の解明による新規診断・治療法の開発
藤生克仁／東大・先進循環器病学
- ・健康長寿を目指したアンドロゲン受容体を介する遺伝子発現制御機構の統合的同定解析
高山賢一／東京都健康長寿医療センター研究所

- ・ヒト新生児が有する脳傷害後のニューロン移動メカニズムの解明と再生促進の実現化
神農英雄／名市大・新生児・小児医学
- ・大腸癌転移における炎症性サイトカインの機能解析
谷口浩二／慶大・微生物学・免疫学
- ・シングルセル RNAseq を用いた角膜移植における制御性 T 細胞の可塑性の解析
猪俣武範／順天堂大・眼科学
- ・行動科学理論に基づく情報通信技術を活用した健康格差是正手法の開発と効果検証
近藤尚己／東大・健康教育・社会学
- ・災害医療情報の国内・国際標準化
久保達彦／産業医大産業生態科学研究所・環境疫学
- ・光曝露の健康影響：大規模前向きコホート研究による検証
大林賢史／奈良県立医大・疫学・予防医学
- ・細胞死からみたアレルギー性気道炎症の新しい評価法の確立
植木重治／秋田大・総合診療・検査診断学
- ・治療難治性癌に対する脂質メディエーター標的治療の可能性の探索
永橋昌幸／新潟大・消化器外科学
- ・「希少がん」骨軟部腫瘍のがんプレジジョンメディスンデータベースに基づいた新規治療法開発
末原義之／順天堂大・整形外科
- ・嗅上皮障害後の修復過程におけるインスリンの役割の解明
菊田 周／東大・耳鼻咽喉科学
- ・初期胚発生の遺伝子発現機構を介した胚性の不妊症の病態解明と再生医療の開発
山田満稔／慶大・産婦人科学
- ・皮膚線維化疾患における y RNA の関与の研究
神人正寿／和歌山医大・皮膚科学

10. 日本医学会加盟検討委員会

日本医学会加盟検討委員会は、13名の委員により構成。

平成30年度第1回日本医学会加盟検討委員会は平成30年12月20日（木）に開催した。今年度の加盟申請の29学会についての審査を慎重に行い、その結果を日本医学会協議会に提出した。因みにこの審査は、日本医学会加盟検討委員会報告（平成23年7月）に示された新たな審査基準に基づいて行われている。

11. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会

平成23年度に発足した委員会で、日本医学会として遺伝情報の取り扱い、検査の質保証、提供体制などに取り組むことを目的としている。委員長：福嶋義光（信州大学医学部遺伝医学部特任教授）、委員：五十嵐 隆（国立成育医療研究センター理事長）、小西郁生（国立病院機構 京都医療センター院長）、高田史男（北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学教授）、中村清吾（昭和大学医学部乳腺

外科教授 / 大学病院ブレストセンター診療科長)、宮地勇人 (東海大学医学部基盤診療医学系臨床検査学教授) の6名で構成されている。第17回委員会を平成30年10月5日 (金) に開催、第18回委員会を平成31年3月7日 (木) に開催。

12. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会

「遺伝子・健康・社会」検討委員会の部会として平成25年3月に発足し、主に施設の認定、登録を行っている。久具宏司 (部会長: 東京都立墨東病院産婦人科部長)、澤 倫太郎 (日本医科大学女性生殖発達病態学講師)、榊原秀也 (横浜市立大学附属市民総合医療センター婦人科診療教授・診療部長)、川目 裕 (東北メディカル・メガバンク機構教授)、高田史男 (北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学教授)、丸山英二 (慶應義塾大学大学院マネジメント研究科特任教授) の6名により構成されている。

13. 日本医学会利益相反委員会

平成22年度に発足した「日本医学会臨床部会利益相反委員会」を、平成24年度に「日本医学会利益相反委員会」に改称した。委員長: 曾根三郎 (徳島大学名誉教授 / 徳島市病院事業管理者)、委員: 植木浩二郎 (国立国際医療研究センター糖尿病研究センター長)、土岐祐一郎 (大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授)、南学正臣 (東京大学大学院医学系研究科教授)、前川 平 (京都府保健環境研究所所長)、村山敏典 (金沢大学附属病院臨床開発部先端医療開発センター長)、浅井文和 (日本医学ジャーナリスト協会幹事 / 元朝日新聞社編集委員)、小笠原彩子 (南北法律事務所弁護士) の8名で構成。

本委員会と日本医学会連合研究倫理委員会と日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会と日本医学雑誌編集者組織委員会との第1回4委員会合同委員会を、平成30年5月8日 (火) に開催した。主な議題は、①各委員長からの挨拶と取り組み状況、②第4回研究倫理教育研修会についてであり、その後、第4回研究倫理教育研修会を開催した。

平成31年3月26日 (火) に第18回委員会を開催した。主な議題は、①COIマネジメントの経緯と平成31年度の取り組み、②日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告、③臨床研究CREATE-X事案について等であった。

14. 日本医学雑誌編集者組織委員会

日本医学雑誌編集者組織委員会は、平成20年に発足した。委員構成は、委員長: 北村 聖 (国際医療福祉大学医学部長・教授)、委員: 木内貴弘 (東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワーク研究センター教授)、北川正路 (東京慈恵会医科大学学術情報センター課長補佐)、津谷喜一郎 (東京有明医療大学保健医療学部特任教授)、中山健夫 (京都大学大学院医学研究科健康情報学教授)、根岸正光 (国立情報学研究所名誉教授)、三沢一成 (特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会専務理事)、湯浅保仁 (東京医科歯科大学副学長)、吉岡俊正 (東京女子医科大学理事長・学長) の9名である。

本委員会と日本医学会連合研究倫理委員会と日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会と日本医学会利益相反委員会との第1回4委員会合同委員会を、平成30年5月8日（火）に開催した。主な議題は、①各委員長からの挨拶と取り組み状況、②第4回研究倫理教育研修会についてであり、その後、第4回研究倫理教育研修会を開催した。

第22回委員会を、平成30年7月31日（火）に開催した。主な議題は、①APAME（アジア太平洋医学雑誌編集者会議）2018（インドネシア・ボゴール）報告、②日本医学会129分科会宛アンケート案（日本医学会利益相反委員会と共同作成）、③『日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン』の更新、④第9回日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）総会／第6回日本医学会分科会利益相反会議総会／第2回日本医学会分科会利益相反会議ならびに日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）合同シンポジウムの開催、⑤日本医学会利益相反委員会活動報告についてであった。

平成31年3月8日に「悪徳雑誌への注意喚起について」を公表した。

15. 日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）ならびに日本医学会分科会利益相反会議合同シンポジウム

第2回日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）ならびに日本医学会分科会利益相反会議合同シンポジウムを「医学研究公表のためのコンプライアンス」をテーマとして、平成30年11月6日（火）に開催した。詳細は日本医学会ホームページに掲載したので、参照いただきたい。

当日は総会に引き続き、北村 聖（日本医学雑誌編集者組織委員会委員長）、曾根三郎（日本医学会利益相反委員会委員長）の司会の下、下記プログラムでシンポジウムが開催された。

- ・医学雑誌編集にかかる分科会アンケート結果報告／北川正路（東京慈恵会医科大学学術情報センター課長補佐）
- ・『日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン』の改訂／津谷喜一郎（東京有明医療大学保健医療学部特任教授）
- ・日本医学会129分科会における医学研究に係る利益相反（COI）対応の現状：アンケート調査結果報告／土岐祐一郎（大阪大学大学院消化器外科学教授）
- ・医学系研究機関における組織COI管理ガイダンス：臨床研究とInstitutional COI／苛原 稔（全国医学部長病院長会議臨床研究・利益相反検討委員会委員長／徳島大学医学部産科婦人科学教授）
- ・JAMS COI管理ガイドライン：ICMJE Recommendations への整合性化／曾根三郎（徳島大学名誉教授／徳島市病院事業管理者）
- ・Issues for Survival of Journal of Korean Medical Science／Sung-Tae Hong（Journal of Korean Medical Science（JKMS）編集長）

16. 研究倫理教育研修会

日本医学会分科会全体で、研究倫理のあり方、研究倫理問題の予防と発生時の対応について情報を共有し、各分科会会員の教育啓発に活かすことを目的として、日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会合同で、第4回研究倫理教育研修会を、「医学研究発表の質と信頼性の確立」をテーマとして、平成30年5月8日（火）に開催した。詳細は、日本医学会ホームページに掲載したので、参照いただ

きたい。

シンポジウムは、市川家國（日本医学会連合研究倫理委員会委員長）、北村 聖（日本医学雑誌編集者組織委員会委員長）、曾根三郎（日本医学会利益相反委員会委員長）の座長の下、下記のプログラムで開催された。

- ・医学研究・発表における諸問題：変化に対応するには／湯浅保仁（東京医科歯科大学副学長／日本医学雑誌編集者組織委員会委員）
- ・雑誌編集のガイドライン作り—編集者の権利と責任について—／北村 聖（国際医療福祉大学医学部長・教授）
- ・臨床研究法の施行で産学連携活動はどのように変わるか？／藤原康弘（国立がん研究センター企画戦略局長／中央病院副院長）
- ・論文発表を前提とした臨床研究と COI 管理／曾根三郎（徳島大学名誉教授／徳島市病院事業管理者）
- ・研究発表に当たっての倫理ガイドラインの共通化に向けて／仁尾正記（東北大学大学院医学系研究科小児外科学教授／日本医学会連合研究倫理委員会委員）
- ・国内外で始まった研究不正審査標準化への動き／市川家國（信州大学特任教授）

17. 移植関係学会合同委員会

平成4年4月に発足した移植関係学会合同委員会は厚生労働省、日本医師会、関係学会で構成されており、世話人を日本医学会長が務めている。

18. 日本医学会だより

平成元（1989）年度より発行している日本医学会だより（JAMS News）は、本年度、5月にNo.59を、10月にNo.60を発行した。なお、No.58からはオンライン版のみの発行となった。

19. 情報発信

平成12年10月に日本医学会のホームページを開設した。日本医学会分科会の協力を得て、本会のホームページ（URL:<http://jams.med.or.jp/>）と分科会ホームページをリンクしている。

20. その他

- ①「日本医学会分科会一覧」を平成30年8月に作成、関係各方面に配付した。
- ②「平成31年日本医学会分科会総会一覧」（オンライン版）を平成30年12月に作成した。